

夢の国・モナコそのもののような、明るく柔らかで美しい音色 歴々の名指揮者もタクトを振ってきた名門が 2017年より音楽監督を務める山田和樹、 世界最注目ピアニストの藤田真央と共に、横浜に登場！



Kazuki Yamada
© Benjamin Ealovega

Mao Fujita
© Dovile Sermoka

創立は1856年、歴史ある名門モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団が、現音楽監督を務める我らが山田和樹と、ついに横浜に登場する。モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団を聴くと、ため息が出るようなモナコの美しき街並みがいつも頭に浮かぶ。美しくエレガントなだけではない。突き抜ける青空のような明るさ、楽しくも落ち着いた空気、人々の開放的な笑顔まで…そのすべてを、彼らの音から聴くことができる。世界中探しても、こんな素敵な印象を与えてくれるオーケストラは他にはない。これまでもリヒャルト・シュトラウスやレナード・バーンスタインなど名指揮者が好んでタクトを振ってきたことも、この音を聴けば納得である。

驚くべきは、山田和樹の音楽との親和性だ。彼の指揮から生まれる柔らかで自然なフレージングと、なんと相性のいいことか。山田和樹と言えば2023年6月に行われ話題となったバーミンガム市響との熱演の印象も未だ新しいが、それとはまた違った形で、モンテカルロフィルと素晴らしいアンサンブルを奏でる。山田和樹の器の大きさは、底が知れない。今回のもうひとつの目玉はもちろん、藤田真央との共演である。未だ20代前半ながら最高峰のアーティストが集まるルツェルン音楽祭に2年連続で出演し、ミラノスカラ座やコンサートヘボウ管、バイエルン放送響などと共演を重ねる、日本が生んだスーパーピアニストだ。常に我々の想像のはるか上を奏でる、別次元の彼の音楽を、ラヴェルの美しき名曲でたっぷり楽しめる。

横浜の港が見える横浜みなとみらいホールの午後に聴く、名手たちとモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団との共演。他では味わえない、格別なひとときとなるであろう。

Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo

山田和樹(指揮) Kazuki Yamada, Conductor

2009年、第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。2012年～2018年スイス・ロマン管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストックアドバイザーに就任。日本では、読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督としても活動している。2023年はバーミンガム市交響楽団とのBBCプロムスに出演、ボストン交響楽団とのタンゲルウッド音楽祭でのデビュー、そして秋にはバーミンガム市交響楽団とのドイツ、スイスツアーを、2024年春にはヨーロッパ各地でコンサートを行う。また、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団への定期的な客演、ベルリンドイツ交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、シカゴ交響楽団へのデビューを予定。2023年6月にはバーミンガム市交響楽団との日本ツアーも行った。音楽の喜びと真髄を客席と共有し熱狂の渦に巻き込む、名実ともに日本を代表する人気マエストロである。はだのふるさと大使。ベルリン在住。

藤田真央(ピアノ) Mao Fujita, Piano

2017年、弱冠18歳で第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。2019年チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞し、審査員や聴衆から熱狂的に支持され世界の注目を集めた。自然体で奏でられる、繊細かつヴィルトゥオーゾを持ち合わせた唯一無二の美しい音色が高く評価され、次々と世界の舞台に招かれる。ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、エディンバラ国際音楽祭、ラ・ロック＝ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ツィンタリ音楽祭など主要な音楽祭へ定期的に出演。2023年1月、カーネギー・ホールにてホール主催のソロ・リサイタルデビューを果たした。同年5月、音楽監督リカルド・シャイー率いるミラノスカラ座フィルハーモニー管弦楽団とのヨーロッパツアーを成功させる。同年7月、ウィグモア・ホールにて5日間に渡るモーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲ツィクルスを開催。クリストフ・エッセンバハ、リカルド・シャイー、アンドリス・ネルソンス、マレク・ヤノフスキ、ラハフ・シャニ、ヴァシリー・ペトレンコといった指揮者たちからの信頼も厚い。2021年11月、ソニークラシカル・インターナショナルと専属レコーディングのマルチアルバム契約を締結し、2022年10月には〈モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲集〉をリリース。このアルバムは、ドイツのオーバスクラシック賞2023にてYoung Artist of the Yearに選出された。

モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団 Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo

モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団は、1856年に「新外国人管弦楽団」としてオーケストラが結成され、1958年には「モンテカルロ国立オペラ管弦楽団」と改称。1980年に「モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団」が正式な名称となり、それ以来、音楽界で国際的にも重要な地位を占めている。その伝統と現代性を融合させる力により、重要な交響曲作品や現代音楽作品の演奏、オペラやダンス音楽においても主導的な役割を果たしている。モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の歴史は、ヴィクトール・デ・サバタ、ルイ・フレモー、イーゴリ・マルケヴィチ、ロヴロ・フォン・マタチッチ、ジャンルイジ・ジェルメッティ、マレク・ヤノフスキ、ヤコヴ・クライツブルク、そして2016年から現在まで音楽監督を務める、山田和樹といった偉大な指揮者や音楽監督によって彩られてきた。2010年秋、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団は「OPMCクラシックス」レーベルを立ち上げた。このレーベルのもとで多くの作品が録音され、音楽専門誌から数々の賞を受賞している。モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の総裁はハノーファー皇太子妃が務めており、モナコ大公アルベール2世の支援と激励を受けている。またモナコ公国政府および、ソシエテ・デ・バン・ド・メール、フィルハーモニック・オーケストラ連盟友の会のサポートを受けている。